

**留学先国名** : カナダ

**留学先学校名** : Cobequid Educational Centre

**留学期間** : 平成 27 年 1 月 29 日～平成 28 年 1 月 19 日

私が初めてみたカナダは一面雪景色で今まで体感したことのないような寒さに空港を出た瞬間驚きました。また、私のステイしていたノバスコシアは静かで自然いっぱいの場所で空気がすごくおいしかったです。

私は一年間で3つの家にステイしました。一つめの家にいた頃は英語もあまり上手く話せませんでした。それでも家族に助けられ特にホームシックになることもなく過ごせました。ホストシスターや学校にいた日本人が友達を紹介してくれたこともあり、すぐに学校の友達と打ち解けることができました。カフェテリアで友達と食べるランチや、放課後カフェや映画館に寄って遊ぶ時間がとても楽しかったです。それでも最初は学校についていくのが難しかったです。ホストシスターと同じクラスをとっていたので教えてもらいながら無事に期末試験を終えました。ESLの授業では同じような留学生の生徒たちと一緒に基本的な英語の文法などを学びました。セメスターが終わったあとにはプロムがありました。映画などで憧れていたプロムは、日本では体験できない貴重な思い出になりました。夏休みにはサマーキャンプへ行って大学の寮でルームシェアしながら毎日午前中は英語の勉強、午後からはビーチやショッピングへ行ったり、川下りやダンスパーティーなどさまざまなアクティビティを通してたくさんの友達を作りました。サマーキャンプでできた友達とは今でも連絡を取り合いながらポストカードを送ったり、近況を報告しあう仲です。ほとんどの留学生が夏休みはそれぞれの家に帰る中、キャンプに行くことになっていた私でしたが本当に充実した夏をカナダで過ごすことができました。キャンプ前後に2週間ずつだけステイしていた家は、子どもたちと遊びながら自分の時間をつくるのが難しく苦労しましたが、赤毛のアンで有名なプリンスエドワード島へ連れていってもらい、島内を観光できて楽しかったです。

次のセメスターからのステイ先は、家族のルールがたくさんあって大変なこともありましたが、毎日のサパーテーブルでは会話と笑いが絶えない素敵なお家でした。学校には多くの留学生がいて、そのなかで物事を違う角度から見たときに、人はどんな風に考えているのか、人と人や、国と国での考え方の違いなどを感じる場面がありました。それでも話し合っていく中でより仲良くなっていき、言葉が違う国の人と英語を通してコミュニケーションをとることの便利さを改めて実感しました。そんな話合いの中で自分を見つめ直すこともでき、両親への感謝の気持ちもより大きくなったと思います。ハロウィンには仮装をしてダウンタウンを友達とお菓子集めにまわったり、お化け屋敷に行き、クリスマスには日本のお正月のような雰囲気の中、家族とゆったりと過ごすことができました。あっという間の一年間で日本に帰る前は家族や友達に会いたい気持ちと、まだカナダを離れたくない気持ちでいっぱいでした。出発の時よりもカナダを立つ時の方が辛いと思うとは想像もしていませんでした。そんな風に思える一年間を過ごせたことは本当に幸せなことだからと自分に言いかけ、またみんなと会うことを約束して帰国しました。カナダの家族や友人とは今でも毎日のようにメールを交換したりスカイプでビデオ通話をしています。

一年間の留学経験は、もちろん英語のスピーキング、リーディング、リスニング、ライティングのスキルをアップさせてくれましたが、それだけでなく身の回りの生活面や、精神力を磨き上げてくれました。また日本とカナダ、その他の国ではマナーや習慣が違い、それを肌で感じることはとても新鮮なことでした。帰国後友達の話の話を聞いていると、みんなそれぞれ苦労しながらも1回も2回も成長して帰ってきたことがよくわかりました。これから留学をしたいと考えてる人や少しでも留学に興味がある人は是非チャレンジしてみしてほしいと思います。大学生になったら、大人になったら、と先延ばしにすることなく、やってみたい！と思った時にトライしてほしいです。たしかに言葉が通じない場所へ行くということは困難なこともあります。それでも支えてくれる人がいるとそれが頑張る力になり、英語上達の第一歩になります。実際、私はいつか両親に留学へ行かせてよかった。この娘に投資してカナダへ行かせた甲斐があった。と思ってもらえたらいいなと思っています。それから留学に行くなら日本に関する知識は豊富であればあるほどいいと思います。なぜなら留学するといろいろな人から日本の文化や政治、歴史などについて聞かれるからです。そして2020年には東京でオリンピックが開催されます。たくさんの外国からの観光客にむけ、日本のさらなるグローバル化を手助けしたいほか、オリンピックで英語通訳ボランティアをしたいと思っています。